

▼リアメット配合錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 アルテメテル／ルメファントリン Artemether (Arm) ／Lumefantrine (Lmf) 【分類】 抗マラリア剤

【単位】 ▼配合錠 [アルテメテル 20mg＋ルメファントリン 120mg]

【常用量】 体重に応じて 1 回 1 錠～4 錠

5kg 以上 15kg 未満：20mg／120mg (1 錠)

15kg 以上 25kg 未満：40mg／240mg (2 錠)

25kg 以上 35kg 未満：60mg／360mg (3 錠)

35kg 以上：80mg／480mg (4 錠)

■本剤の投与後 1 時間以内に嘔吐した場合には再投与

【用法】 初回，初回投与後 8 時間，その後は朝夕 1 日 2 回 2 日間 (計 6 回)，食直後

【透析患者への投与方法】 常用量 (1) データなし (サンフォード感染症治療ガイド)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 常用量 (1) 常用量だが，データが少なく慎重投与 (サンフォード感染症治療ガイド)

【特徴】 アルテメテル及びルメファントリンを 1：6 の比率で含有。両成分ともマラリア原虫の食胞内において作用。アルテメテルは DHA に代謝され，アルテメテル及び DHA が有するエンドペルオキシド架橋が赤血球のヘム鉄と反応することで反応性代謝物を産生し抗マラリア活性を発揮する。

ルメファントリンは食胞でのヘモグロビンの分解過程で有毒な中間生成体であるヘムから毒性のないヘモゾインへの重合過程を阻害することで抗マラリア活性を発揮すると考えられている。全ての種のマラリアに対して有効。

【主な副作用・毒性】 QT 延長，アナフィラキシー，頭痛，めまい，睡眠障害，動悸，消化器症状，発疹など

【安全性に関する情報】 QT 延長のリスク重複に注意 (1)

【F】 アルテメテル 19.7%，ルメファントリン 8～24% [animal] (1)

【tmax】 アルテメテル 1.5hr，DHA2hr，ルメファントリン 6hr (1)

【代謝】 いずれも主に CYP3A で代謝 (1) アルテメテルは吸収後に活性体の dihydroartemisinin (DHA) に代謝 (1) アルテメテル (は水酸化，グルクロン酸抱合，O-脱メチル化を受け，DHA は UGT1A9/2B7 でグルクロン酸抱合 (1) ルメファントリンは N-脱ブチル化，C-水酸化，グルクロン酸抱合にて代謝 (1)

【排泄】 尿中に未変化体としては排泄されない (1)

【CL/F】 アルテメテル 370±190L/hr，DHA297±67.6L/hr，ルメファントリン 2.25±0.683L/hr (1)

【t1/2】 アルテメテル 2.1hr，DHA1.62hr，ルメファントリン 87.4hr (1)

【蛋白結合率】 アルテメテル 95.4%，DHA47%～76%，ルメファントリン 99.7% (1)

【Vd】

【MW】 アルテメテル 298.37，ルメファントリン 528.94

【透析性】 除去されないと思われる (5)

【O/W 係数】

【相互作用】 CYP3A 関連の相互作用に注意 (1) ルメファントリンは vitro で CYP2D6 を阻害 (1)

【肝障害患者への投与方法】

【小児 CKD 患者における報告】

【妊婦・授乳婦への投薬】

【主な臨床報告】

【更新日】 20250529

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。